

笠岡市城見公民館 学びの広場『ふれあい陶芸教室』

◆ねらい(解決したい地域課題)

笠岡市城見地域には、吉備焼の陶房があり、裏山には100年前の登り窯が風雨にさらされて残っています。近くには、土と火と水の神を祀ってあります。「ふれあい陶芸教室」の参加者は、4代目水川創壊さんの指導を受けながら作品を作り、一世紀も続いた文化遺産・産業遺産に関心を持ち、先人の活動を讃え、大切に作る心が育って欲しいと願っています。

◆活動の様子(写真も入れて)



「うわ～！マチュピチュみたい～」と参加者の声。水川創壊先生の「奥行40m、中間の中は約8mぐらいだよ」との説明。奥に登ってみると、陶片が散乱し、壁のレンガ積みも残っていた。「こんな遺産、大切に保存できないのかな・・・」というつぶやき!!

以前は、先生のまわりを集って見ていましたが、今回はコロナ対策のため、水川先生の手元をスクリーンに映して説明。離れていてもみんな真剣に見聞きしています。良く、わかったかな!!



さあ、自分の器づくりに挑戦！よく土を練って、ろくろ台に乗せ、自分の手で粘土に気を与え、器の形に仕上げていきました。「昔は、これをあの登り窯で焼いたのかな？」と子ども達の声。



まとめ

乾燥させた数週間後、水川陶房の窯で焼きました。少し小さな形に整い、焼きの火の魔力で色合いもできました。「私だけの一品だぞ！」



◆効果(参加者の声等)

城見で生まれ育った方、新しくこの地に居をもとめた方々が、永い間眠っていた登り窯を見て、「へ～こんな奥行40mの窯が残っていたなんて・・・」「先人の方は、傾斜をうまく使っているな～」と感嘆されている声・声……。私達の今あるのは、縄文より古い時代より、水と土と火により、生活用品を工夫してきました。そうした先人の努力にふれ、これからの人間の生き方を考えたいものです。コロナ禍の中で、自然との共生を強く感じる事業となりました。